

第14回

淡海の川づくりフォーラム

プログラム & 選考用資料



日時：令和4年(2022年)8月27日(土) 10:00~16:15 (受付 9:15より)
場所：現地会場とオンラインの併用開催(現地会場:コラボしが 21 3階各会議室)
主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会/滋賀県
共催：マザーレイクゴールズ推進委員会
後援：滋賀県河港・砂防協会

目次

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要.....	1
2. 大会プログラム.....	2
3. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について.....	3
(1) 「公開選考会」の意味.....	3
(2) 公開選考会の進め方について.....	3
(3) 選考基準.....	5
(4) ポスター選考.....	5
(5) 表彰.....	6
4. 参加団体一覧・テーブル.....	7
5. テーブル別各団体活動位置図.....	8
6. テーブル選考 選考員プロフィール（五十音順）.....	9
テーブルA.....	9
テーブルB.....	10
テーブルC.....	11
7. 全体討論 選考員.....	12
8. 総合コーディネーター・グラフィックファシリテーター&実行委員会.....	13
9. 参加団体活動概要.....	14
A-1 玉ーアクアリウム.....	14
A-2 一般社団法人 水源の里まいばら 再生可能エネルギー推進協議会.....	16
A-3 小さな自然再生ネットワーク.....	18
A-4 新大宮川を美しくする会.....	20
B-1 おおきにトビケラさんプロジェクト.....	22
B-2 山内エコクラブ.....	24
B-3 滋賀県立大学 瀧研究室.....	26
C-1 NPO 法人 瀬田川リバプレ隊.....	28
C-2 河川管理パートナーの会.....	30
C-3 UNIT エー (LIFE LINES PRODUCT).....	32
10. 現地会場 フロア全体図.....	34

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要

淡海の川づくりフォーラムでは、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。

- 日時：令和4年（2022年）8月27日（土）10:00～16:15
- 開催方式：現地会場とオンライン（Zoom）との併用開催
※オンラインによる一般参加（聴講）も可能
- 主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会／滋賀県
- 共催：マザーレイクゴールズ推進委員会
- 後援：滋賀県河港・砂防協会

全体発表（午前）
参加団体が一堂に会して、日ごろの取り組みを発表します。



テーブル選考（午前）
3つのグループに分かれ、全体発表で語りきれなかった部分の説明や質疑を通じて、それぞれの活動について理解を深めます。



全体討論（午後）
テーブル選考、復活選考を経て、推薦された“きらり”と光る活動を学びながら、“川や水辺と私たちの関係”について議論を深めていきます。



淡海の川づくりフォーラムは、マザーレイクゴールズ推進委員会との共催事業です。



Mother Lake Goals

変えよう、あなたと私から

淡海の川づくりフォーラムは、滋賀県流域治水条例第34条に基づく県民相互の連携の支援事業です。



2. 大会プログラム

時間	内容
9:15 10:00	○受付 ○選考委員・事務局ミーティング（進め方、選考方法等）
10:00 10:15	○開会、ガイダンス 開会宣言を行い、その後1日の流れを説明します。
10:15 11:05	○全体発表 参加全団体による活動発表（発表時間各3分）
11:05 12:05	○テーブル選考 Zoomの「ブレイクアウトルーム」機能により 3つのテーブルに分かれて選考を行います。 ・発表者とテーブル選考員とで議論を深め、各テーブルの “イチ押し”の活動を選考します。（テーブル毎に1団体） ・“イチ押し”に選ばれた団体も、選ばれなかった団体も、 みんなで午後からの全体討論に進みます。
12:05 12:25	○テーブル選考結果報告・推薦団体発表 各テーブルの議論の報告と“イチ押し”の活動に選考された団体を 発表します。
12:25 13:05	○お昼休憩
13:05 13:45	○ポスター選考 ・参加者全員で、応援したい！活動に、「応援メッセージカード」、 「Zoomチャットメッセージ」を贈ります。 ・現地参加の団体は、会場内に掲示したポスター横で活動をPRして ください。 ・オンライン参加の団体は、オンライン上（Zoomの各ルーム）で活動を PRしてください。
13:45 15:30	○全体討論（適宜休憩をはさみます） 1)各団体2分間で活動内容を発表、その後、全団体への質疑応答。 2)総合コーディネーター・全体討論選考員を中心に、明日からの活動の 参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、 参加者全員でさらに議論を深めていきます。



15:30

| ○休憩

15:45

15:45 ○まとめとふりかえり

| グラフィックファシリテーション、キーワードにより、今年の
16:15 淡海の川づくりフォーラムの議論をふりかえります。

○各賞の発表・表彰式

- 1) 「グランプリ」・「準グランプリ」の表彰
 - 2) 「マザーレイクゴールズ賞」、「山紫水明賞」の表彰
 - 3) 「応援の花咲いた賞」の表彰
-

3. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について

(1) 「公開選考会」の意味

- 淡海の川づくりフォーラムは、公開選考会という仕組みを使って、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について考えることが目的です・・・受賞団体の選考は、手段であって目的ではありません。
- お互いの発表を聞き、選考員や参加の皆さんそれぞれの視点を通して、活動の「よいとこさがし」をしてください。
- 14 ページから、今回参加の皆さまの活動概要を掲載しています。ページの下側に、「よいとこ探しキーワード メモ」の欄を設けています。ぜひ、「よいとこキーワード」をメモして、議論に参加してください。
- 質疑応答や討論時間を使って行われる「よいとこさがし」は、“川や水辺と私たちのいい関係”について考えを深める時間です。
- 今年は前回同様に「現地会場とオンラインの併用開催」となりますが、プログラムの流れは例年と同じスタイルで考えています。現地会場とオンラインの併用となりますが、気づき、良さをみんなで探り合いましょう。

(2) 公開選考会の進め方について

- 選考会は、全体発表→テーブル選考→ポスター選考→全体討論(公開討論会)→表彰の順番で進めていきます。
- 全体発表は、参加団体が一堂に会して、日ごろの取り組みを発表します。全体発表は1団体3分とし、質疑は行いません。
- テーブル選考は3グループ、1テーブル3または4団体に分かれ、全体発表で語りきれなかった部分の説明や質疑を通じて、それぞれの活動について理解を深めます。発表者とテーブ

ル選考員とで議論を深め、各テーブルの“イチ押し”の活動を選考します。（テーブル毎に1団体）

- 全体発表終了後、オンライン参加の方はZoomの「ブレイクアウトルーム」機能を使って、事務局ホストにより、参加団体・テーブル選考員のみなさんを各テーブルの小部屋に振り分けをします。（テーブルAはメインセッションのまま）
- 全体討論選考員、一般傍聴の方は、テーブル選考の時間は各テーブル間を自由に移動ができます。

テーブル	テーブル選考会場	
テーブルA	現地会場=大会議室	オンライン=メインセッション
テーブルB	現地会場=中会議室1	オンライン=ブレイクアウトルーム「テーブルB」
テーブルC	現地会場=中会議室2	オンライン=ブレイクアウトルーム「テーブルC」

- ポスター選考では、活動内容を1枚にまとめたポスターの前で、参加団体が活動をPRします（オンライン参加の団体はZoomの各ルーム上でのPRになります）。参加者全員で、応援したい活動に「応援メッセージカード」などを贈ります。
- 全体討論では、再度、メインセッションで発表をしていただきます。（各団体発表時間2分間、その後、全団体への質疑応答）（**テーブル選考時の発表内容と同じでも、異なってもどちらでも構いません**）
- 総合コーディネーター・全体討論選考員を中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。
- 選考員は、自らも発表者から情報を得たり、学んだりする姿勢を持ちながら参加者と一緒に“川や水辺と私たちの共生”、“川や水辺と私たちのいい関係”とは何かを探求する立場にあります。議論や選考は、後戻りや批判をすることなく、創造的に深めていくことを心がけてください。
- 全体討論の議論は「グラフィックファシリテーション」「ホワイトボードレコーディング」により、「リアルタイム」で議論の「見える化」を行い、Zoomで共有します。



(3) 選考基準

- 伝統的な文化と新しい文化が出会い融合する湖国滋賀にふさわしい“川や水辺と私たちの共生”“川や水辺と私たちとのいい関係”を探ります。
- 内容の長所を評価する加点方式とし、短所は減点の対象としません。
- 公開選考会は、以下の4つのポイントにおいて総合評価します。

- 1) 発想・着眼評価：“川や水辺と私たちのいい関係”をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価
例えば…
 - ・この発想はなかった！
 - ・やれるところからやりはじめているのが、イイね！ など
- 2) 関わり評価：地域住民と水辺との豊かで良好な関わり合いについての評価
例えば…
 - ・水辺が地域を元気にするね！
 - ・継続は力だ！ など
- 3) プロセス評価：市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価
例えば…
 - ・え、そんな人たちも参加しているんだ！
 - ・その連携は面白い！ など
- 4) 計画・技術評価：“川や水辺と私たちの共生”のために工夫された計画手法や採用技術についての評価
例えば…
 - ・そんなことが出来るんだ！
 - ・すこしの工夫でずいぶん違うね～！ など



(4) ポスター選考

- テーブル選考を実施した各会議室に、各団体の活動を1枚にまとめたポスターを掲示したブースを設置します。参加団体はそれぞれのブースの前で参加者の皆さんに活動をPRしてください。オンライン参加の団体はブース前に設置したパソコンを通じてZoomの各ルーム上でPRしてください。
- 各団体の活動内容（ポスター）については、本プログラムP14～P33でもご覧いただけます。
- 参加者全員に「応援メッセージカード」を3枚ずつお配りします。もっと応援メッセージを贈りたい方のために、会場内にもカードを置いておりますのでご自由にお取りください。
- ポスターや各団体のPRを見て、応援したい！と思われた活動に「応援メッセージカード」を贈りましょう！
- 「応援メッセージカード」には一言でもメッセージを書いてください。団体の活動の励みになります。

- WEB 上でも、Zoom のチャットで、どんどんメッセージを贈ってください！



(5) 表彰

【グランプリ・準グランプリ】

- 上記の選考基準により、審査する時点の流域・地域の情勢も踏まえ、“水辺と私たちの共生”、“水辺と私たちのいい関係”のモデルとなる活動を選考します。
- 上記の選考基準により、仲間たちに希望を与える活動を選考します。

【マザーレイクゴールズ賞】

- 上記の選考基準とは別の視点から、マザーレイクゴールズ (MLGs) の目指す、2030 年の持続可能社会の実現に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【山紫水明賞 (河港・砂防協会賞)】

- 上記の選考基準とは別の視点から、今後の淡海のいい川づくり・いい湖づくりの(事業)推進に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【応援の花咲いた賞】

- 上記選考基準とは別に、ポスター選考でPRした各団体の活動内容に対して、参加者からのメッセージが一番多かった団体を表彰します。
- 全ての参加団体が受賞の候補となります。
- 他の賞と重複して受賞する可能性もあります。

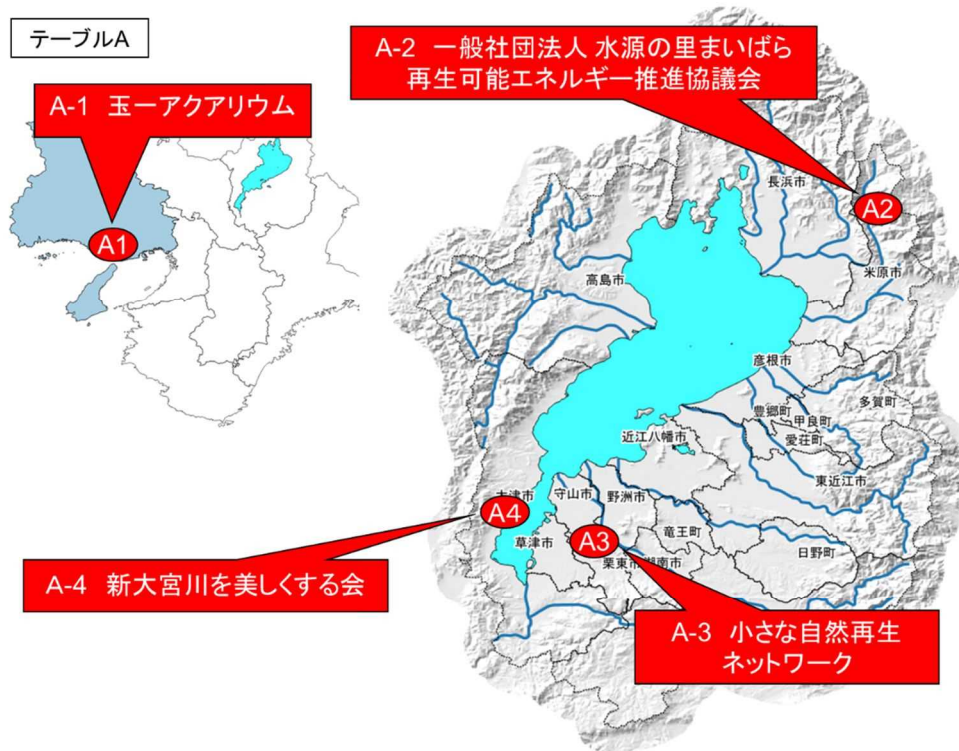
4. 参加団体一覧・テーブル

●全体発表はA-1から順番に行います。

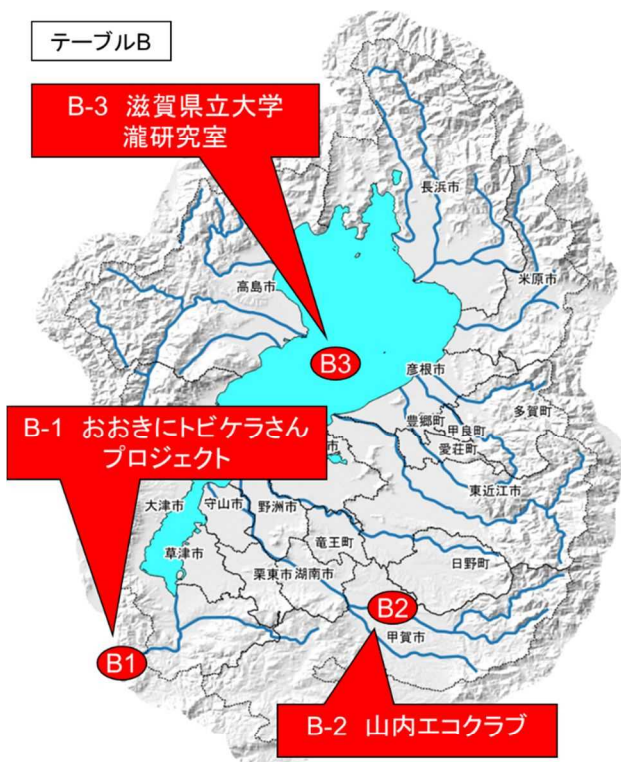
テーブル	グループ名	湖沼・河川・活動地域等	活動内容
テーブルA	A-1 玉ーアクアリウム 【現地】	明石川 (神戸市 西区 玉津町)	明石川の環境保全活動
	A-2 一般社団法人 水源の里まいばら 再生可能エネルギー 推進協議会 【オンライン】	姉川(上流域) (米原市 甲賀 甲賀集落)	姉川の上流域を守り水源の里を保全して、豊富な水資源を確保出来るように地域ぐるみで、様々な活動をして維持存続を目指していきます。
	A-3 小さな自然再生 ネットワーク 【現地】	中ノ井川 (栗東市 大宝神社付近)	中ノ井川や蛇が池を中心に親水、自然観察のエリアを拡大する
	A-4 新大宮川を 美しくする会 【オンライン】【AMのみ】	新大宮川 (一級河川 大宮川、足洗川 の下流部)	新大宮川とその周辺的环境・美化清掃活動
テーブルB	B-1 おおきにトビケラさん プロジェクト 【現地】	宇治川 (京都府)	環境のイベントに参加したり、イベントを主催、展示開催など、知る機会の場を作る。 漫画冊子やグッズを制作し、身近なものから意識を持たせる。
	B-2 山内エコクラブ 【オンライン】	野洲川 (甲賀市、湖南市、野洲市、 守山市)	野洲川エコスクール
	B-3 滋賀県立大学 瀧研究室 【現地】	琵琶湖	紙芝居の作成
テーブルC	C-1 NPO法人 【現地】 瀬田川リバプレ隊	瀬田川 高橋川	河川のゴミ拾い、草刈り、植栽、水質調査
	C-2 河川管理 パートナーの会 【現地】	主に長沢川、狼川、千丈川 (大津市 千町、大萱(瀬田 東) 付近 他)	河川巡視活動を通じた河川管理の支援と、住民協働による川づくりへの参加・協力など
	C-3 UNIT エー (LIFE LINES PRODUCT) 【オンライン】【AMのみ】	琵琶湖 なぎさのプロムナードエ リアおよびその湖上 (大津市 におの浜2丁目)	湖上の台船を活用した湖上およびパークフロントを活用した『湖上MARKET』の企画・運営
計		10 団体	

5. テーブル別各団体活動位置図

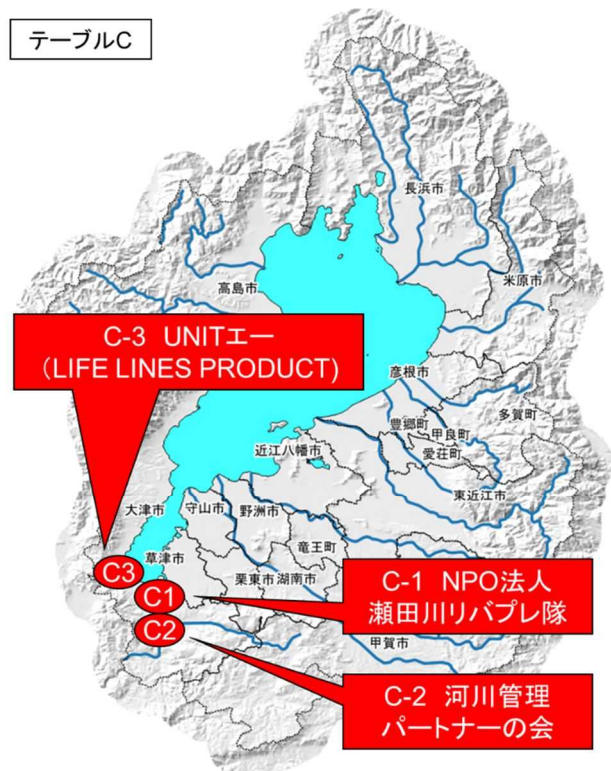
テーブルA



テーブルB



テーブルC



6. テーブル選考 選考員プロフィール

テーブル A

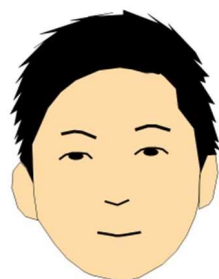
(テーブル・コーディネーター 兼 選考員)



(選考員)

山田 千尋 (やまだ ちひろ) / 流域政策局 流域治水政策室 主幹

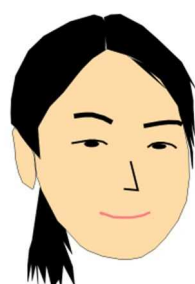
平成11年4月滋賀県庁に土木系技術職員として入庁。これまで県内の土木事務所での勤務が長く、河川の改修工事や琵琶湖の水質・景観保全事業、公共事業用地の買収、道路の維持補修を担当した。平成26年度からの4年間と令和2年度からは、流域治水政策室にて勤務。県民の皆さんに水害リスクや他地域での先進事例を知ってもらう「出前講座」や、市町や自治会が主体となった防災体制づくりを推進する「水害に強い地域づくり」に携わっている。



金子 泰之 (かねこ やすゆき) / NPO 法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA) 事務局 (MLGs)

大阪生まれ大阪育ち。大学生の時は滋賀県に住んでいました。大学4年間はIVUSAでボランティア活動にどっぷりハマっており、転職して古巣のIVUSAに戻って、今は職員として勤務しています。IVUSAのオオバナミズキンバイの除去活動事業の担当をしており、滋賀県を行き来する機会が多いです。本職とは別に書道の先生もしています。

オンライン参加



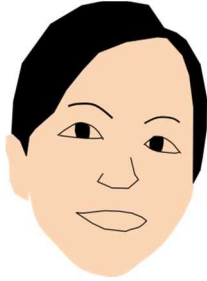
西澤 真樹子 (にしざわ まきこ) / NPO 法人大阪自然史センター

千葉県生まれ。家業だった旅行業の影響で、4大陸と47都道府県をすべて旅する。関西には約20年前に移住(ビワイチは3年前に達成)。大阪市立自然史博物館や琵琶湖博物館で標本作成、教育普及プログラム、教材の作成に関わる。地域の自然と文化の面白さをどのようにわかりやすく、やさしく、多くの人に伝えていくかを考えている時が一番楽しい。大阪市立自然史博物館外来研究員、近畿大学農学部非常勤講師、国立民族学博物館共同研究員ほか。

テーブル B

(テーブル・コーディネーター 兼 選考員)

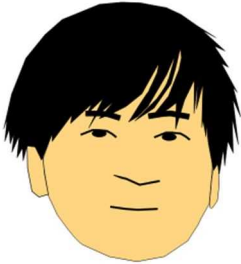
近藤 美麻 (こんどう みお) / 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所



(選考員)

愛知県生まれ。実家横を川が流れており、コンクリート3面張りながらもそこに集う様々な生物を身近に感じながら過ごす。大学進学で移り住んだ岐阜で、水田地帯の生物の豊かさに衝撃を受け、主に淡水二枚貝を対象に水田生態系保全の研究に取り組みつつ、自然豊かな川でリフレッシュする日々を過ごす。現在は大阪府立環農水研生物多様性センターに勤務し、府内の水辺にすむ生物の調査研究や、生物多様性教育・普及を担当している。

上田 隼也 (うえだ じゅんや) / 一般社団法人インパクトラボ 代表理事 (MLGs)



熊本県益城町出身。草津市在住。立命館大学在学中より SDGs に関心を持ち、一般社団法人インパクトラボを設立。

昨年、滋賀県で策定された MLGs 等にも深く関わっている。社会課題をビジネスを通じて解決する社会起業家の育成に力を入れている。

菅原 芳明 (すがはら よしあき) / 農政水産部 耕地課 主幹



福井県生まれ。日本海を見て育つも、両親が生まれ育った滋賀に愛着を持ち、滋賀県に入庁。入庁後、農業を営む上で必要な施設の整備（用水路等）や棚田保全、湖魚が産卵・成育できる水田環境を取り戻す「魚のゆりかご水田プロジェクト」等を担当するとともに、「環境こだわり農業の推進」「不法投棄対策」「地域活性化を目指した自転車（ビワイチ）の活用」にも携わる。日々、趣味であるサイクリングを通じて、地域の「自然や文化」「食」を楽しみながら、多くの方々との出会いに「感謝」している。

テーブルC

(テーブル・コーディネーター 兼 選考員)



(選考員)

田口 真太郎 (たぐち しんたろう) / 成安造形大学 未来社会デザイン共創機構 (MLGs)

茨城県日立市生まれ。滋賀県立大学卒業後、近江八幡市のまちづくり会社にて、西の湖の重要文化的景観の保全と活用等に取り組む。

現在は成安造形大学未来社会デザイン共創機構の研究者として、官民連携のまちづくりや、学生や若い世代の地域探究活動を通じた共創をテーマに活動している。

伊吹 信人 (いぶき のぶと) / 流域政策局 局長



昭和 63 年 (1988 年) 4 月滋賀県庁に土木系技術職員として入庁。

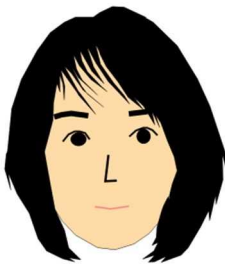
入庁して 35 年、河川行政に多く携わってきました。

初めて水害を目の当たりにしたのは、愛知川が決壊した平成 2 年 (1990 年) 台風 19 号でした。当時の河川の氾濫、被災の状況が今も記憶に残っています。

近年、気候変動に伴い水害が多発しています。どのような洪水にあっても人命を守り、甚大な被害を回避できるよう「しがの流域治水」を一步ずつ前に進め、地域に愛される川づくりを目指します。

オンライン参加

皆川 明子 (みながわ あきこ) / 滋賀県立大学 環境科学部 生物資源管理学科 准教授



山形県米沢市に生まれる。地元の田んぼにはヤゴとオタマジャクシしかおらず、大学時代に東京で「魚のいる田んぼ」に衝撃を受けた。そこから、近代的な圃場整備がされていない水田地帯を中心に農業と魚の関係を研究している。たくさんの生命をはぐくみ、豊かな稔をもたらす田んぼを守ってきた農家を支えるしごとがしたいと思っている。

7. 全体討論 選考員

安居 長敏（やすい ながとし）／安居長敏（ドルトン東京学園 中等部・高等部 校長）



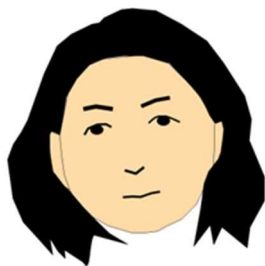
滋賀県彦根市生まれ。滋賀女子高で20年間教員をした後、2002年、42歳で起業。滋賀でコミュニティFMを2局設立運営。個人でもITオンサイトサポート業を営む。2006年、再び教育現場へ戻り、滋賀学園中高へ。2013年から校長。2017年に沖縄へ移住し、沖縄アミークスインターナショナル校長。2019年、東京へ移り、ドルトン東京学園へ。2011年10月～2013年3月、琵琶湖河川レンジャーとして活動。周囲からは《変人＝変化を楽しみ・つくる人》と呼ばれている。

八木 宏晃（やぎ ひろあき）／三島市役所 計画まちづくり部 都市計画課 課長補佐（静岡県から派遣）・しぞ～か防災かるた委員会 副会長



静岡県清水区生まれ。小学生の頃は清水港で毎日のように魚釣りをして遊んでいた。小学校・中学校の通学路には巴川の脇を通り通学していた。平成8年に静岡県の土木技師として採用され、静岡県の土木防災・危機管理行政に永く従事してきた。プライベートでは、しぞ～か防災かるた委員会に所属し、「静岡の良さ」と「防災の心得」を学べる「しぞ～か防災かるた」を通じて防災意識の啓発に努めている。また、静岡県版のいい川・いい川づくりワークショップである「しずおか川自慢大賞」の事務局運営にも携わっており、滋賀県さんとも交流をさせていただいております。

吉岡 美佐子（よしおか みさこ）／草津湖岸コハクチョウを愛する会 理事長



滋賀県東近江市生まれ、幼いころ川や山が遊び場。夏には蛍が飛び交い冬にはシカやキジが現れる自然豊かなふるさとでした。主人の海外赴任に同行、帰国後草津琵琶湖岸でコハクチョウに出会い一目ぼれ、仲間と環境ボランティアを設立22年、冬の3ヶ月は毎日大好きな琵琶湖や山々を眺めながら水鳥観察指導や環境保全活動をしています。

オンライン参加

金尾 滋史（かなお しげふみ）／琵琶湖博物館 学芸員



1980年広島県生まれ。当時学長をしていた日高敏隆先生と琵琶湖の魚に憧れ、滋賀県立大学へ入学。その後同大学院、多賀町立博物館学芸員を経て現職。専門は淡水魚の保全生態学。

学生時代から地域の川づくり、河川・田んぼでの環境教育にいろいろと参画してきた。現在は、地域の子どもたちに囲まれながら、「学」と「芸」を両立させるカリスマ学芸員を目指して日々修行中。

8. 総合コーディネーター・グラフィックファシリテーター&実行委員会

(総合コーディネーター)



栗原 秀人(くりはら ひでと) / NP021 世紀水倶楽部理事長

長野県安曇野生まれ。建設省・国交省で下水道を中心に河川・砂防・河岸など水に関わる事業に携わりながら日本各地を転々、先々の水文化を学ぶ。平成13年4月から2年4ヶ月、県土木交通部長を努めたが、先ず琵琶湖を徒歩で一周、その後も東海道、中仙道、名刹などを足で巡り、そこで触れた滋賀の人と風土は人生の宝。「人と川と街のいい関係の再構築」をテーマに、NP021 世紀水倶楽部理事長、地域活性化伝道師(内閣府登録)も努める。

(グラフィックファシリテーター)



あるがゆう

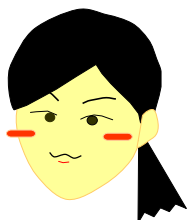
京都女子大学家政学部生活造形学科意匠専攻卒業。

グラフィックレコーディングを研究。半年で100以上の現場でペンを持ち、卒業論文にまとめる。役所、内閣官房主催の対話の場や、中小企業や大手飲料メーカーの研修などで経験を積む。

現在は東京の情報コミュニケーション支援企業にて働きながら、グラフィックファシリテーターとして活動中

(実行委員会)

委員長



委員長代理

北井 香(きたい かおり) / NPO 法人まちづくりスポット大津 コーディネーター

県内の農山村を中心にいくつかの活動にスタッフなどの立場に関わっています。地域の良さを前向きに活かして、活動・発信・取組みを応援したい。現職は滋賀県立大学 特定プロジェクト研究員。2009年に流域治水検討委員会(住民会議)を母体とした淡海の川づくりフォーラム実行委員会を立ち上げ、現在、実行委員長。

瀧 健太郎(たき けんたろう) / 滋賀県立大学 准教授



川の日(7月7日)生まれ。大学院修了後、民間企業を経て滋賀県庁勤務(18年間)ののち現職。河川・流域政策の実務を長年にわたって担当した(淡海の川づくりフォーラム第1回~第6回まで事務局)。数多くの川や人との様々な出会いを通じ、川の魅力に取りつかれている。また、どんな川であっても、地域に愛される川こそが「いい川」だと信じている。

実行委員会(流域治水検討委員会(住民会議))

滋賀県の流域治水基本方針の策定に向けた「水害から命を守る地域づくり県民宣言」を提言した、流域治水検討委員会(住民会議)の中から、「住民が次の年も活動するのに元気が出るような場をつくろう」との議論があり2009年に発足。

9. 参加団体活動概要

A-1 玉ーアクアリウム

活動のキーワード

- ① 明石川と共に生きる ② 環境保全 ③ 協力と助け合い

発表内容

神戸市絶滅危惧種のヒラテテナガエビも増えてきました。地球温暖化の影響もあるかもしれませんが、外来種のオオクチバスやブルーギルやアメリカザリガニなどを駆除して減ってきたのに入れかわるようが増えてきたので、外来種の駆除の効果も大きかったと思います。

私たちは先輩や仲間や地域の人たちと、そして神戸市環境局の方々と、そして明石川と協力して助け合って活動を続けています。

活動中の川や水辺の名称

二級河川 明石川（神戸市西区玉津町）

活動内容

明石川の環境保全活動

よいとこ探しキーワード メモ！



